



編集発行 羽津北小学校  
PTA広報  
印刷 阿竹印刷工業株

第 18 号



### やきやき

### 楽しさをめざして

音楽担当 松岡 節子

やさしさには「ドナドナ」。楽しさには「殺虫罪」。ゆったりとしたテンポの中に美しいハーモニ

あばれんぼう盛りの子供たちは並ぶこと、おしゃべりをしないこと、肝心の指揮棒を見ることなど歌以前の問題が次々に起きてきたのです。けれども厳しさと真剣さをくりかえすうちになんと発表の心構えが身についたように思われます。

音楽会に参加する意義のほかに音楽が好きになるようにとねがって練習をはじめました。

いつもつきそっていた担任の先生方、長い間協力ありがとうございました。最後に五年生のみなさん。本番は、今までの中で一番上手にできましたね。私は文化会館のホールに響いたじんととくる歌声をいつまでも忘れな

一本の指揮棒と二〇九人の声一つにまとまって一つの心として表現するには時間が必要でした。九月には学級単位で、十月にはパート別で、十一月には全員でというふうに計画を立ててきました

「ドキン、ドキン。」おねがなりはじめた。プログラムが進んでいくたびに大きくなり、「あーどうしよう、神様。」と何本も思った。ただ、なんのなんの、歌つてみれば平気。歌い終わってから、

### 心に残った音楽会

一組 樋口 美保

がわかりました。

「あーあ、いやだな、どうしよう。」と思ったのが私たちの出番を待っている時でした。心ぞうがドキドキ、私たちの歌だけ下手だったらどうしようという不安な気持ちでいつぱいでした。

### がんばった音楽会

一組 中島光香

とうとう歌う時が来て、ぶ台に並びました。「パツ」と明るくなつた時、私は、「いつしうけんめい歌うしかない、がんばろう。」と思えました。そして、今までで一番きれいな声で歌おうとひしひし思っていました。

よいを聞いている時、すごく声もすき通っているなあ。とか、うまいなあとか思いました。

### 大成功だった

晴れ舞台

三組 服部 祐佳

十一月二十一日は音楽会でした。その日のために、みんなは音楽の時間や放課後などをつかっていっしょけんめい練習しました。そのせいかをはつきりしようと、みんながんばりました。「ここで上手な歌を歌わなければ、今まで練習してきたかいない。」とわたしは思っていました。プログラム一番が歌い終わってロビーへ出ると、もうドキドキしていました。わたしは、「こんなにドキドキしていたら声が出るんじゃないかな。」と思えました。でもちゃんと歌えました。松岡先生は「◎。」と言ってくれました。校長先生も「羽津北小学校が一番うまくいった。」と言ってくれました。わたしは、この言葉を聞いて「よかった」と思いました。これもみんな指さしてくださった松岡先生のおかげです。松岡先生どうもありがとうございました。

# 両親学級とふれ合い作品展



作品展について  
一年一組 吉田 和子

今年初めての試みとして、文化的な学年行事「親子のふれあい」と題して、親と子が一緒に作品を作ることにしました。学年によって、いろいろ作るものがあります。一年はいろいろな材料を使って、楽しい動物園にしようという事でした。前々から、子供と何を作ろうかとなかなか決まらなかった。当日、体育館一ぱいになって、一生懸命作品作りです。まわりを見渡すと、ペンギン、コアラ、ライオンとみんな思い思いの作品が出来上がっていました。

作品展の当日、両親学級も兼ねていたので、たくさんの人であの広い体育館も狭く感じられました。一年生の作品は、子供が家を持ち寄った草や花で飾られ、かわいらしい動物園でした。これからは親子のふれあいを大切にしていきたいと思っています。

## 学年行事に参加して 三年 保護者

昨年までの小運動会と違って、今年は、「街づくり」をする事になりました。はたしてうまく出来るか心配でしたが、当日は空箱や毛糸、スチロール等を手に、大勢のお母さん方が、集まって下さいました。

六人ずつのグループに分れて、作業開始。空箱でビルを作る子、卵の力で花壇を作り、ボタンの花を咲かせる子。自動車や電車を作ったり、病院や商店等、子供達は、思い思いに作り始めました。うまくまとまるかと、心配でしたが、お母さん達の協力もあり、少しずつ、完成に近づきます。絵の具を塗ったり、毛糸をはりつけて何とか時間内にできあがりしました。全部合わせて「羽津北一、二、三丁目」の完成です。我ながらうまく出来たと大満足……。



作品展を見て  
五年三組 広瀬

一年から六年まで子供と親で、協力して出来上がったそれぞれの作品、かわいい動物がならんでいたり、お部屋にかざったら、とてもきれいな小物、山や街を作った学年もありました。さすが六年生は手芸がとつても上手に出来上がっていました。どの作品もほのぼのとしたものが伝わってくるようでした。子供と親と協力して作る、何かお互い通い合うものがあるように思いました。

## 両親学級、講演をみて 六年一組 加藤

十一月十一日、今日は両親学級の参観日なので、子供と一緒に学校に行きました。空模様は雨が降りそうか、気で、肌寒く感じました。そ、授業が始まり、子供達は、先生の質問に対して元気良く、

## 両親学級に思う 清水 貴志代

年度当初より思いつけて来たこの日が、時雨降る11月11日全委員の真剣な取り組みに、見事花開きました。この日は子供達もよそいきの顔々、我が子を見る親の目も真剣そのものでした。



## 講演会

### 演題 「最近の子供の諸問題と親のあり方」

#### 男親雑感

校長 安達 正秋

秋先生の講演を聞いて、「よし我が家のエースとして、ひとつ張り切るか」と決意されたお父さんも多いと思う。その時、していただきたいこと、それは「一人目の母親になるな」ということである。子育てについてはどちらかと言えば、母親のほうがベテラン、その母親と子供の関係に割って入ろうとすれば、つい父親は母親の配慮の細かいやり方を手本にしようとする。子供にとってそのような「母親」が二人いたら、安心であろうが、ときには息が詰まるのではなからうか。神経が細かく、よく気のつく父親に対し、男親はその反対でいい、むしろ反対のほうがよ



講師 皇学館大学助教授 秋 吉康 先生

い。お父さんはお父さんらしく個性で勝負すべきである。最近、「カミナリおやじ」という言葉が消えてしまっている。このお宅でもお父さんはやさしい子供をどなりつけたりというお父さんが減ってしまっている。母親がやりたくてもできないことを、「たまにだから」としてやって人気がとる父親。いつも子供と密着している母親の苦労をこぼして「ものわりのよさ」を發揮しようとするフェアでない父親。むしろ父親は「カミナリおやじ」であればいい。怒ったり、機嫌が悪かったり子供におそれられる存在であつても一向に構わないのではないかと思う。仕事で疲れて帰ってきたときなど機嫌が悪いかもしれない。職場でいやなことがあつたときなど、なおさらである。父親には父親のいろいろな事情がある。それをわかつた上でつき合うこと

が本当の親子関係である。大切なことは、子供のうけをよくするために無理をしないということである。父親は、子供にとって「保護者」であると同時に、広い社会と家庭を結ぶ太いきずなでもある。自分の勤める会社が、世の中のどういう部分を受け持っているのか、どんな役目を果たしているのか、その中でお父さんは、どのような仕事をしているのか、(保長が課長か)はたいして重要でない。お父さんはその仕事に一生懸命がんばっているんだよ。そんなふうに話せる父親でありたい。いざ家庭で事があつたとき、父親の真価を發揮してがんばってくれる子供が信じ込んでいる、そういう父親でありたい。

現職の父親の一人として、過去を振り返り自戒の念をこめて申し上げたい。

答えていました。私は六年生と四年生の子がいるので、二クラス掛け持ちでゆつくり参観できなかったですが、良い勉強になりました。授業も終わり、今度は体育館で、皇学館大学の助教授で、又神系科の先生もしている、大変忙しい秋先生の講演を聞かせてもらいました。内容は、教育問題、親と子の有り方等で、特に自分が感じた所は、二十代のお母さん方は、子供に対して、どうあるべきか……その時の話は、ユートピアたつぷりです。く印象に残りました。



# 楽しかった緑の学校



六年二組担任 筒井 和子

一組 笹川 敦代

荷物をおくのもどかしげにナツプザツクを背おつて雲田峰へと出発した。途中より杉林の細い道をすべり落ちそうになりながら一歩一歩踏みしめ一列縦隊で登りました。お田さん心づくしのお弁当が、早くおろしてほしそつに動きはじめました。額に汗ばむ頃、やつと頂上に到着しお弁当です。

歩きなれない山道を一時間半、頑張つて歩き通した一人ひとりの力と自信は、登つた。という満足感で、緑の学校最高の思い出です。



この四日市市青少年野外活動センターに来て、いろいろなことを学び教えられました。

雲田峰の頂上まで登り、おいしい空気の中でお弁当を食べました。上りが多くて、足がだるかつたけど、これも一つの思い出となりました。

そして二日目。宮妻峡まで歩きました。去年の六年生はかさをさして歩いたけれど、今年は、晴れてよかつたです。宮妻峡には冷たくて、気持ちいい川も流れていました。その川を山がこみきれいな景色でした。帰り道にさるがいて、とつても楽しい一日でした。そしてとうとう最後の日、もつといたいなあとばかり思っていました。けど、二泊三日も自然の中で勉強し、協力しあひとても楽しい思い出ができました。センターの方々本当にありがとうございました。

二組 島村 佳代子

十一月の六日、七日、八日と二泊三日でグリーンスクールに行きました。

一日目、雲田峰へ登山。急な坂道を必死になって登りました。頂上についてひと安心。でも、



「ここが頂上や。」

というくらいせまく期待はずれでした。頂上で食べたお弁当は、とてもおいしかったです。

二日目。六時三十分起床。昨日のつかれもすつかりとれました。今日は宮妻峡へハイキング。もみじが真っ赤できれいでした。川の水が冷たくて、とても気持ちよかつたです。帰り道、サルがいたのにはびっくり。とてもかわいかったです。

二日目。とうとう最後の日です。作文を書いてだいぶ反省しました。この三日間で、集団生活の苦しさ自然の良さ、大切さを学びました。センターの先生方、二日間どうもありがとうございました。

三組 古川 朋子

一日目は、宮妻峡へ行った。今度は山道ではなくほそつされた道路だつたので、割りと歩きやすかつた。目的地に着くと川原があり、山があつてきれいだつた。てんとう虫も暖かいので葉かげから出てきていた。葉をさがしに出ると、野いちごや名前の知らない赤い実があつた。宮妻峡にぐる前に、もみじのすくなくさんあるもみじ谷を通つた。もみじはその方がすこかつた。これも空気がおいしかったです。帰り、おさるさんに会つた。とてもかわいかったです。

二日目、もうグリーンスクールがあつという間に過ぎてしまつた。後一週間いたかつた。空気はおいしいし、みんなセンターの人はいい人だから。別れる時センターの人がレコードをかけてくれた。センターでもらつた石をぎゅつとにぎつた。さびしかつた。

## 第二回交通安全教室

十一月二日(金)、低、中、高学年に分れて交通安全教室が開かれました。

今回は「自転車の安全な乗り方指導」が主に行われました。内容は、一列走行、手信号による発進、停止、交差点の右折・左折練習が中心でした。低、中学年は校庭に作られたコースで練習し、高学年



は一般道路へ出て行われました。

## 信号機の設置と注意

十一月二日、かねてから念願でありました内山冷菓前に信号機が設置されました。しかし、信号機が取り付けられたとはいへ、まだ日も浅くドライバーの中には気付いてない人もあるかも知れませんが、信号機だけを過信せず、もう一度自分の目で左右を見て、車が停止したのを確認してから渡るようにして下さい。また押ボタンの点滅信号ですので、必要もないのにボタンを押したりしないよう、家庭の方でも十分指導いただきたいと思います。

(安全部)

## 編集後記

「けやき」十八号発行に対し、多数の方の御協力をいただき、ありがとうございました。

